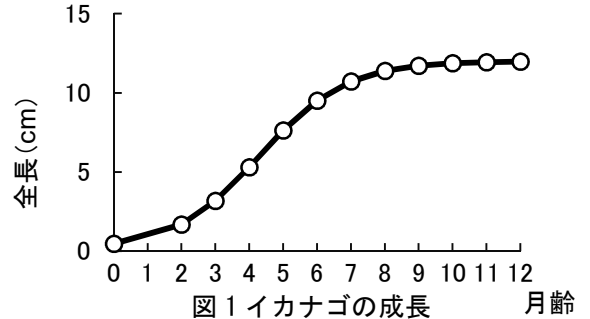


# イカナゴ (コウナゴ (稚魚) / メロウド (成魚))



## 生態的特徴等

【生態】 沖縄を除く日本沿岸に広く分布するが、特に産卵場がある瀬戸内海、伊勢湾、茨城県以北の太平洋沿岸に集中的に分布する。産卵期は12～1月で、体長3cm程になる3月頃から漁獲対象となり、水温が上昇する7月頃には粗砂～砂礫質の海底に潜って冬まで夏眠する。満1歳で成熟、寿命は6～7歳と考えられており、最大で16cm程度となる。餌はカイアシ類や小型甲殻類で、成魚はこの他に魚類仔魚やオキアミ類も捕食する。体長7cm程度までの稚魚はコウナゴ、これより大きいサイズはメロウドと呼ばれる。



【漁法と盛漁期】 漁期は、コウナゴは2～5月、メロウドは6～7月で、いずれも船曳網で漁獲される。茨城県で漁獲されるイカナゴは、地先発生群よりも仙台湾からの来遊群が主体と考えられており、冷水の南下が強い年に好漁になる傾向がある。このため、大津、久慈、大洗地区などの県北～県央での水揚げが多い。

【利用】 コウナゴは煮干しや佃煮（くぎ煮）の原料として、メロウドは主に養殖餌料向けになり、大型のものはヒラメ釣り・延縄の餌としても利用される。コウナゴはプライドフィッシュ（春）に選定されている。

## 海況により変動するが、来遊資源は低位・減少傾向

（漁獲量）過去には10千ト以上漁獲された年もある一方、100kg未満の年もあり、漁獲量の変動が大きい（図2）。

（水準と動向）漁獲量は海況に大きく左右されることから、コウナゴの来遊資源として評価した。過去のCPUE（kg/隻・日）の推移から（図3）、H29年の水準は「低位」、東日本大震災の影響を大きく受けたH23～25年を除く過去5年の傾向から、動向は「減少」とした。

水準



動向

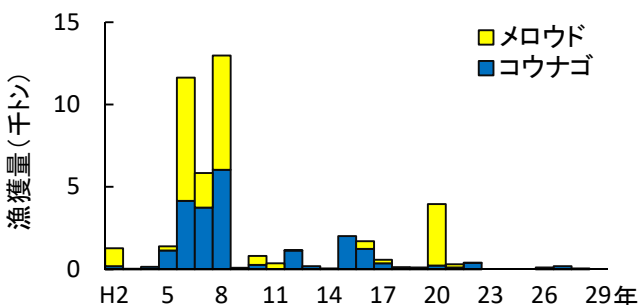


図2 イカナゴの漁獲量（水試システム・属地）

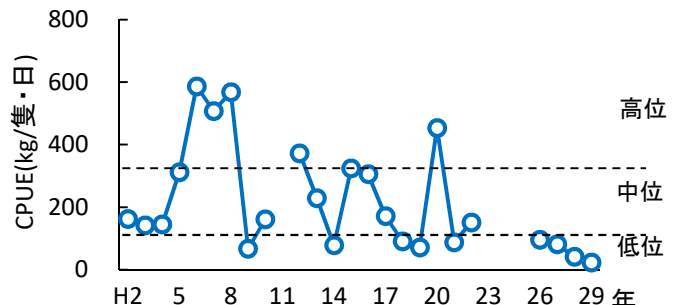


図3 コウナゴのCPUE（船曳網）（水試システム）

## 【全国の漁獲動向】

・茨城県以外では、仙台湾、伊勢・三河湾、瀬戸内海が主な産地となっているが、近年、生息環境の変化等により資源は減少傾向にある。